

平成30年度第4回教育委員会協議会 会議録

平成30年度第4回教育委員会協議会

場所：安芸市民会館

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成30年7月11日(水) 18:30

閉会 平成30年7月11日(水) 20:40

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席委員	教育長	伊藤 博明
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	木村 祐二
	教育委員	中橋 紅美

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	高岸 憲二
〃	教育次長	長岡 幹泰
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	山岡 正文
〃	高等学校課課長補佐	藤田 優子
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	池上 淑子
〃	高等学校課主任管理主事	麻植 隆久
〃	高等学校課主任管理主事	石丸 太郎
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良(会議録作成)
〃	高等学校課主幹	久保 義博
〃	教育政策課教育企画担当チーフ	三谷 玲子(会議録作成)

【開会】

伊藤教育長	ただ今から、県立高等学校再編振興計画の「後期実施計画」に関する平成30年度第4回高知県教育委員会協議会を開会させていただきます。 本日の議事録への署名人は平田委員、よろしくお願いたします。
平田委員	はい。
伊藤教育長	それでは、冒頭私の方からご挨拶をさせていただきます。 まず、この週末にかけまして、台風7号から梅雨前線の停滞によりまして大変大きな被害が出ております。安芸では、まだまだ孤立集落も残っておりますし、安芸川の堤防の決壊もありました。大変な被害が出ておりますことに、心からお見舞いを申し上げたいと思います。 また、そういったなか、本日も集まりいただいたたくさんの方々に、心からお礼を申し上げたいと思います。 申し遅れました。私、県教育長の伊藤と申します。どうかよろしくお願

	<p>いをいたします。</p> <p>本日は、先ほど申し上げましたように、本年度第4回、通算では昨年度から第14回目の教育委員会協議会となっております。</p> <p>本年度の第2回の協議会におきましては、この安芸市内の県立安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校につきまして、東部地域の活力ある拠点校の在り方という視点から協議を行いまして、2つの検討案に絞り込みをさせていただいております。</p> <p>5月の定例教育委員会におきまして、「中間とりまとめ」として取りまとめたものを本日お配りもしております。</p> <p>本日の会議ではこの2案につきまして、内容としましては、一つ目として、高校については統合し、校地は現在の安芸桜ヶ丘高等学校に一本化すること。2つ目として、県立安芸中学校については継続するのか、募集停止とするのかについて、学校関係者の皆様方、市町村の教育委員会の皆様方に、ご意見をお伺いしまして協議する会としております。</p> <p>なお、本日協議いただいた内容も踏まえまして、9月の教育委員会協議会でパブリックコメント案として提案をさせていただき、その後、協議をしていく予定としておりますので、どうかよろしく申し上げます。</p>
--	--

【議題】

(1) 事務局説明

伊藤教育長	<p>それでは、さっそく会を始めていきたいと思っております。</p> <p>議題の県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」における東部地域の活力ある拠点校の在り方について、事務局の方から説明をお願いいたします。要点を押さえながらも、初めての方もいらっしゃると思いますので、丁寧な説明をお願いします。</p>
山岡企画監	<p>高等学校課企画監の山岡と申します。よろしく申し上げます。資料につきまして、座って説明させていただきます。</p> <p>1ページをご覧ください。資料1は、教育委員会協議会でのこれまでの意見を載せております。</p> <p>昨年11月の教育委員会協議会の地域会での意見となっておりますが、そこにありますように、安芸高校に対しては、地域学習を行う地域のリーダーとなる生徒を育成してほしい。</p> <p>安芸中学校に対しては、切磋琢磨できる存在であり、ありがたいという意見。</p> <p>安芸桜ヶ丘高校に対しては、工業科、商業科の特徴を生かした地域貢献をしてくれているという意見がございました。</p> <p>そして、両校に対しましては、中学生や保護者に対して高校の魅力をアピールして欲しいという要望がありました。</p> <p>南海トラフ地震に対しましては、安芸高校は海がすぐ目の前にあり、恐怖心を抱くのではないかと。安芸桜ヶ丘高校は、球場の方に上がれるので大丈夫ではないかというような意見がございました。</p> <p>そして、両校の統合については、統合もやむを得ない、あるいは2校のままがよいという声がありますけれども、いずれにしても普通科、工業科、</p>

商業科は残してほしいという意見がございました。

2ページをご覧ください。今年2月の全体会では、南海トラフ地震への対応といたしましては、生徒の安全第一を考え、想定外も想定していく。そして、学校の移転については、浸水深とともにまちづくりの観点、そしてBCPも含め検討していきたいというところでもございました。

県立安芸中学校につきましては、イにありますように、児童数の減少を踏まえ、現行の定員の維持は困難であり、場合によっては募集停止もあり得るという考え方と、ウにありますように、現在、県立中学校は東部・中央部・西部の3地域に配置されているということもあわせて、こうした地理的なバランスを踏まえ継続すべきという意見がございました。

また、市町村と在り方を検討すべき、あるいは運動部活動の拠点校として振興策を考えていくべきといった意見もありました。

なお、県立中学校・高等学校の中高一貫教育校としての成果は、後ほど参考資料3で説明させていただきます。

そして、今年3月の全体会で各学校の在り方の方向性を協議した時には、3のところにもありますように、東部地域の拠点校としてのあるべき姿、県立中学校の定員の検討の必要性などの議論がありました。

南海トラフ地震対策としましては、海が目の前にある校舎で学ぶことの課題、そして科学的な津波対策が必要。想定外も考えないといけない。子どもたちの視点を優先すべきといった意見がございました。

3ページをご覧ください。今年5月には、これまでの協議を踏まえて、両校の在り方について6つの案を示して議論をいたしました。大きく分けて2つの論点があります。

一つ目の論点は、県立安芸中学校を存続するか、募集停止とするかです。案1～案3が県立中学校を存続する案、案4～案6が募集停止する案です。

もう一つの論点は、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校を統合するのか、しないのか。また、する場合、どのような統合にするかということです。案1と案4は、両校とも本校として今のまま存続する考え方。案2と案5は、統合したうえで両校の校舎をキャンパスとして活用する考え方。案3と案6は、統合したうえで安芸桜ヶ丘高校の校地に一本化する考え方です。

この6つの案に対して協議した結果、南海トラフ地震への対応、そして、東部地域の拠点校として活力ある学校づくりが必要であるということから、案3と案6に絞り込まれました。

それをまとめたものが、5の点線枠囲みのところです。5の点線枠囲みでいう案1も案2も、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校を統合して、安芸桜ヶ丘高校の校地に一本化するという点は同じであります。違いは、案1は県立安芸中学校を存続する案、案2は募集停止とする案です。今日は、ここでいう案1、案2について協議させていただきたいと考えております。

続きまして、5ページをご覧ください。先ほどの案1と案2につきまして、メリットや課題を記載しているのが1の表でございます。

案1も案2も、2つの高校が統合するので一定の生徒数がおり、活力ある教育活動ができること、さらに安芸桜ヶ丘高校の校地に一本化するので、南海トラフ地震に備えた立地になるといったメリットがございます。

案1は中学校を存続しますので、6年間の一貫教育を踏まえた進学実績が確保されるといったメリットがそれに加わります。

課題としましては、案1の場合、中学生の生徒数の確保が課題となること。案2の場合、中高一貫教育を受ける機会がなくなり、例えば高知市内への進学となるといった課題があるほか、中高一貫教育に代わる進路指導が求められるといった課題が出てきます。

いずれの案でも、安芸桜ヶ丘高校の現在の校舎に、統合後の生徒が全員学ぶことができるというスペース、余裕はございませんので、校舎や体育館の改築・改修が必要となってきます。

統合に向けた考え方としましては、その下の2番にありますけれども、東部地域の拠点校として適正規模の維持を図るとともに、南海トラフ地震への対応を目的として、高等学校の統合を行いたいと考えております。

そして、統合年度は平成34年度を予定しています。理由としましては、新学習指導要領の開始に合わせる。そして南海トラフ地震対策という理由から、できるだけ早い時期の統合が望ましいといったような理由などでございます。

そして、校舎や体育館といったハード整備は、平成33年度末の完成を想定しています。ただ、工期の関係から統合年度が平成35年度になる可能性もあります。ただし、ハード整備が間に合わない場合でも、統合年度は平成34年度としたうえで、現在の両校の施設を活用するという運用も考えていきたいというふうに考えております。

6ページをご覧ください。統合の形としては、表にありますとおり、平成32年度に安芸高校や安芸桜ヶ丘高校に入学した生徒は、統合校の3年生として、平成33年度に両校に入学した生徒は統合校の2年生として、平成34年度に入学した生徒と一緒に勉強するというのを考えております。

統合した場合、1学年は、普通科は3学級120人、工業科は1学級40人、商業科は1学級40人で、現在の両校の入学定員を維持する予定です。学科改編や教育課程の変更は、平成34年度から開始したいと考えております。工業科・商業科の学科やコース・専攻につきましては、現在検討中ですが、東部地域の中学生のニーズ、地元企業などの求人ニーズなども踏まえ決定していきたいと考えております。

7ページをご覧ください。統合校の目指すべき姿は文武両道でありまして、東部地域の進学拠点校や、東部地域の運動部活動強化拠点校として体制の充実を図りたいと考えております。文化部はこれまでの特色ある取組をさらに磨き上げる。そして、就職支援の充実強化にも取り組んでいきたいと考えております。

そして、エにもありますけれども、専門的な教育と包括的な取組、その両面から全人教育を実施していきたいと考えております。

8ページをご覧ください。県立安芸中学校の継続に係る検討の視点でござります。第一に生徒減少のなか、市町村立中学校や県立安芸中学校の生徒の確保をどう考えていくのかというものです。

視点の第二は、中学1年生から高校3年生までの異なる年齢の生徒の交流、そして進学実績、部活動の活性化など、県立安芸中学校・高等学校のこれまでの成果をどう考えるのかというものです。存続する場合は、これまでの取組をより充実することになりますが、募集停止とする場合には、この中高一貫教育の代わりとなる教育活動を模索する必要があると考えております。

視点の第三としては、ハード整備です。存続の場合は、安芸桜ヶ丘高校の校地に中学生用の施設も必要となるため、募集停止の場合よりも、必要となる施設整備の範囲がより広がるというところでございます。

検討事項としましては、県立安芸中学校を継続する場合は、中学校から高校の普通科だけでなく、工業科、商業科にも進学できるようにする。そして、平成31年度の中学校の入学からそういう取扱いにすることを予定しております。

中学校の入学定員は、平成33年度の入学状況を踏まえ、現在と同じ60人を維持するのか、あるいは定員を減すのかを決めることにしたいと考えております。

一方、仮に募集停止とする場合は、平成32年度からの実施ということになります。

続きまして、資料3を飛ばしまして、13ページの参考資料1をご覧ください。

県立安芸中学校は、入学定員は平成28年度以降60人となっていますけれども、志願者は平成29年度は36人、志願倍率0.6。平成30年度は志願者54人、志願倍率0.9となっています。

次に、県立安芸中学校への進学実績のある市町村における小学6年生の児童数の推移ですが、平成30年度が594人であり、今後の推計では、平成35年度に542人に減少する見込みで、8.8%の減が見込まれております。

続きまして、14ページをご覧ください。安芸高校と安芸桜ヶ丘高校のこれまでの入学数と今後の入学数の推計です。

なお、安芸高校の入学定員は平成28年度までが160人、平成29年度以降が120人です。また、安芸桜ヶ丘高校の入学定員は、平成29年度までが120人、平成30年度以降が80人となっています。

平成30年度の入学数は、安芸高校は114人、安芸桜ヶ丘高校が31人であり、全校生徒は安芸高校が290人、安芸桜ヶ丘高校が95人となっています。

平成31年度以降は、安芸高校が入学者おおむね70人台、全校生徒おおむね230人程度。安芸桜ヶ丘高校は、入学者がおおむね30人台、全校生徒が90人程度と見込まれています。

続きまして、15ページをご覧ください。東部地域の市町村ごとの中学校卒業生数の推移です。

平成30年度は、室戸・東洋地域で81人、中芸地域で56人、安芸・芸西地域で213人で、東部地域全体で合計350人です。平成39年3月には、それぞれ室戸・東洋地域で48人、中芸地域で46人、安芸・芸西地域で159人となり、合計253人で27.7%の減となることが見込まれています。

続きまして、16ページをご覧ください。併設型中高一貫教育校についてご説明します。

中高一貫教育の導入の意義としましては、2にも書いていますけれども、中等教育の選択の幅を広げる。6年間の一貫教育により個性や能力を伸ばす。高校受験の負担の解消。そして、部活動などの活性化でありました。

一方、市町村行政との緊密な連携、地域バランスに配慮する必要があるといった点が留意点でございます。

本県における成果としましては、そこにも書いていますけれども、中高

一貫教育校が3つの地域に配置され、既存の中学校以外の選択肢となっている。そして合同行事や部活動を通して異なる年齢の生徒同士の交流が進んでいる。そして部活動の合同練習の成果として、活躍する部活動があるということです。

例えば、そこにも書いていますがけれども、平成29年度の安芸中学校・高校では、陸上競技、体操競技、弓道、吹奏楽、書道などで四国大会や全国大会に進んでいます。

そして、進学の方では、国公立大学や難関私立大学への進学者に占める内進生の割合が高くなっております。その下に、国公立大学進学者に占める内進生の割合、というところを書いております。平成27年度、平成28年度、平成29年度のそれぞれのパーセントを書いておりますけれども、平均割合として63.5%ということで高い割合となっております。

国公立大学進学者の割合も導入前に比べて上昇しております。そして早稲田大学、関西大学、中央大学などの難関私立大学にも進学しています。

また、県立安芸中学校では、英語教育にも力を入れて、充実した英語教育プログラムを実践しているというところです。

ただし、一方では、市町村立の中学校では、生徒数の減少、そしてリーダーとなる生徒の不在、団体競技の部活動でチームが組めないといった課題もございます。

18ページをご覧ください。安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高校で想定される津波被害についてご説明いたします。

まず、安芸中学校・高等学校の欄について、横に説明させていただきます。

敷地の一番低い所からの浸水深は、L2の地震があった場合5mで、全ての校舎の2階まで浸水することが想定されています。30cmの津波が到達する時間は57分と想定されています。

校舎は4階建てで、標高はグラウンド・校舎ともに9mです。避難場所は北舎の屋上であります。避難場所の標高は23.5m、避難場所の広さは849㎡。避難距離、避難時間は、校内が避難場所ですので、数字としては明示していません。校舎は津波避難ビルに指定されています。

下の注意にもありますけれども、ここでいう「避難指定」には津波避難場所、避難所、福祉避難所がありますが、このうち「津波避難場所」とは、津波からの危険を回避するため、緊急的・一時的な避難を行う避難場所のことです。

次に、安芸桜ヶ丘高校について説明します。

敷地の一番低いところからの浸水深は5mで、グラウンドや体育館の1階、及び南舎の1階のみが浸水することが想定されていますが、体育館の2階、中舎、北舎は浸水しないと見込まれています。30cmの津波が到達する時間は95分と想定されています。

校舎は4階建てで、標高はグラウンドが9.8m、校舎が11mです。避難場所は、安芸市総合運動場（補助グラウンド）となっております。避難場所の標高は20m、避難場所の広さは13,000㎡となっております。避難距離、避難時間は、200mで10分程度となっております。校舎の避難指定はされておられません。

続きまして、備考の欄です。

	<p>安芸高校は、南舎は平成 27 年 1 月に着工して、28 年 2 月に完成しています。耐震校舎となっています。また海岸に面しており、直接的な津波被害を受けると予想されておりますが、南舎及び中舎が防波堤となり、北舎を守ることが想定されています。敷地の全てが浸水する。近くに適切な避難場所はないというところがございます。避難所の指定はありません。避難訓練は、年 3 回実施しております。</p> <p>一方、安芸桜ヶ丘高校も耐震校舎となっています。津波被害は少ないと予想されています。敷地内の北側校舎や補助グラウンドに避難することで、被災後の支援も受けやすいとされております。安芸高校と同じく避難所の指定はありません。避難訓練は、年 3 回実施しております。</p> <p>最後に 19 ページをご覧ください。スケジュールを載せております。</p> <p>この教育委員会協議会は平成 29 年度に 10 回、平成 30 年度、今年に入りまして 3 回ばかり開催しております。5 月末に「中間とりまとめ（たたき台）」を決定・公表したところです。統合を含めた検討校として、学校関係者などを招いて、学校の在り方について協議する場がこの本日の会議でございます。</p> <p>この後、9 月に教育委員会協議会の全体会を開催するとともに、定例教育委員会で「最終とりまとめ（パブコメ案）」を決定する予定です。パブリックコメントを実施しまして、年内には「後期実施計画」を策定したいと考えております。</p> <p>説明としては以上でございます。よろしく願いいたします。</p>
伊藤教育長	<p>それでは、今事務局から説明がありましたけれども、委員の皆様からご質問あるいはご意見、ございましたらお願いをいたします。</p>
平田委員	<p>いただきました資料の参考資料 13 ページですけど、2 で県立安芸中学校への進学実績のある市町村別小学 6 年生の児童数、というのが載っております。</p> <p>ここで例えば、平成 30 年、香南市を除くという項が、249 名ですか。この児童とは、中学校へは県立中学校、そして私立中学校、市町村立中学校へ行った比率というのは、大体どれくらいの比率で行っているのかというのが分かれば、お教えいただきたいと思っております。</p> <p>それと、同じく資料の 15 ページなんですけど、15 ページでも、中学校卒業者の推移というのを載せていただいております。東部地域の計が平成 30 年 3 月が 350 名という数字が載っておりますけど、この数字で、東部に本校が 4 校あるわけですが、どれくらい東部地域に残り、県立高等学校の 4 校へ残り、どれくらいの方が東部地区を離れているかというようなデータを持っておったら、教えていただきたいということです。</p> <p>私としては、やはり東部地域には拠点校というのは必要だという思いを持っておりますので、その辺りのデータを教えていただき、判断していきたいと思っております。</p>
伊藤教育長	<p>それでは香南市を除く 294 名の小学 6 年生の中学校への進学先、それと、東部地域の 350 名の中学生の卒業後の進学先について、データはありますか。</p>

山岡企画監	<p>前段の方については、データがないんですけども、15 ページの方の 350 人の、例えば室戸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校、中芸高校の入学生については、今手元に資料がありますので、平成 29 年度の数字で申しますと、室戸高校の入学者が 42 人、安芸高校が 95 人、安芸桜ヶ丘高校が 38 人。</p> <p>先ほどの 13 ページの方につきましては、東部外の中学校への抜けている率については、14 名、4.7%が抜けているということです。</p>
伊藤教育長	<p>中芸は何人ですか。4 校で室戸が 42 人で、安芸が 95 人で、安芸桜ヶ丘が 38 人でしたが。</p>
山岡企画監	<p>中芸が昼間部で 11 人というところです。</p>
伊藤教育長	<p>それでは、186 人ですか。平成 29 年度 3 月で 348 人について 186 人ということですか。</p>
山岡企画監	<p>室戸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校に入学した数字なので、出身校が東部地域の方かどうかは分かりません。</p> <p>すいません。分かりました。東部地域に残っている中学生は、平成 29 年度で 46.5%でございます。</p>
伊藤教育長	<p>中学校の入学で抜けているのが 4.7%ですか。</p>
山岡企画監	<p>そうです。中学校で抜けている児童の割合です。</p>
伊藤教育長	<p>高校への入学で残っているのが、46.5%ですか。</p>
山岡企画監	<p>はい。残っているのが 46.5%です。53.5%が東部地域外へ出ています。</p>
平田委員	<p>4.7%というのは、私立ということですよ。県立中学校へは 54 名ぐらい入っていますので。</p>
山岡企画監	<p>平成 29 年度で、県立中学校へ抜けている方が 9.1%、27 名。私立中学校へ抜けている方が 4.7%、14 名というところで、県立中学校と私立中学校へ抜けた方を合わせて、13.8%が地元の市町村立の中学校以外に行っているということです。</p> <p>県立中学校に 9.1%抜けている。私立中学校へ 4.7%抜けている。合わせて 13.8%が、地元中学校以外に進学しています。</p>
伊藤教育長	<p>平田委員、よろしいですか。</p>
平田委員	<p>それに併せて資料の見方が、妙に勘違いしていたらいけませんけど。14 ページの 3 番の項の入学者数の推計というところですけど、どうしてこういう数字になるのかなと。</p> <p>私が間違ったらいけません、安芸高校へは県立中学校から進んできた生徒も足しての数ですよ。これを見たら、実質本当に 50 名ぐらいの入学</p>

	<p>生がいて、中学校の卒業生 50 名前後が行って 80 名にならないということは、30 名ぐらいの生徒しか外部からは入ってきてないというような見方でいいのでしょうか。</p> <p>安芸桜ヶ丘高校の生徒数と、大体安芸高校の高校から入ってくる数は同じと見ておって、正確には違うと思いますけど、大ざっぱには大体同じぐらいの数字ではないかなと思っていますんですけど、そういう認識でいいものかどうか。</p> <p>もっともっと数が多くてもいいんじゃないかと、こう見ていたんですけど、実情はこういう状況ですか。</p>
山岡企画監	<p>すみません、3 番の安芸高校の入学者数の推計については、県立安芸中学校からの内進生も含めております。内進生の数が今後少なくなるというようなことも推定されますので、それと併せて考えますと、こういう形になるというところです。</p>
平田委員	<p>分かりました。</p>
八田委員	<p>今の議論と関わるかもしれませんが、13 ページの県立安芸中学校への進学実績で、香南市を除くかどうかで半数減ってしまうんですけど、香南市からは逆にどれくらい来ているかというデータはないのでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>香南市からは 34 人来ております。1 年生、2 年生、3 年生含めて 34 人です。</p>
八田委員	<p>そうすると、1 学年 10 人程度は来ているということになりますか。</p>
山岡企画監	<p>はい。</p>
八田委員	<p>あともう 1 点。その上の表で、男子の入学生が非常に少なく、2 年続けて 10 人しか来てないと。</p> <p>こういう状況で、今後、存続して目指すとする、部活動を活性化しようということも必要だと思いますが、そういうところで、現状で何か支障になっているようなことはないのでしょうか。男子生徒が少な過ぎてうまくいってないというところが、何か問題としてはあるのでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>現在、特に学校の方からは、男子生徒が少ないということで大きな支障があるということは聞いておりません。</p>
伊藤教育長	<p>ほか、ございますか。</p>
各委員	<p>〈意見なし〉</p>
伊藤教育長	<p>そうしましたら、ないようですので、次に学校関係者の皆様方からの意見をお聴きしたいと思います。</p>

(2) 学校関係者からの意見聴取と質疑応答

ア 安芸中学校・高等学校同窓会

伊藤教育長	<p>はじめに、安芸中学校・高等学校同窓会の半田会長様、それから、小松副会長様からご意見をお伺いしたいと思います。</p> <p>お忙しいところ、どうもありがとうございます。それでは、どうかよろしくをお願いします。</p>
半田会長	<p>私、半田と申します。よろしくお願いします。私の場合は、昔の話になって感傷的な面もありますけれども、自分の意見を述べさせていただきたいと思います。</p> <p>まず最初に、今度の統合については、現状の生徒減あるいは人口減、こういう観点からの前提があると思います。私は、これは理想論になりますけれども、これをもっとアクティブに考えたいと、こう思っています。</p> <p>と言いますのは、再編振興後、東部の拠点校としてどうあるべきか。そしてまた、それが人口減あるいは生徒減の歯止めにしていくのかとか。ひいては、安芸を中心とした一つの行政も含めた拠点づくり、こういうような観点から議論をしていただきたいと、こう思っています。</p> <p>最初に、個人的に歴史を振り返ってみたいと思います。</p> <p>ご存じのように、旧制安芸中学校は、高知県立第一中学校の分校として120年近くなります。それが制度で流れて一つの、旧制安芸女学校も含めて、東部の人間、あるいは南国市以东ですか、かなりの人数が全部集まってきたと。それが素晴らしい人材輩出をしている歴史があるわけです。</p> <p>こう申す私も、実はもう60年前になりますが、当時は新制高校になって、私は室戸の佐喜浜ですが、これが全部先輩も安芸へ行ったものだから、学区制では室戸高校へ行かなければいけないところを、安芸高校へ入りたければかりに、安芸へ中学校から転校してきて、安芸高等学校へ入学しました。</p> <p>なぜか東洋町の甲浦・野根の生徒については、全県一区でしたが、佐喜浜、室戸からは学区制が敷かれいた。しかし、当時は寄宿舎があったので、甲浦・野根から男女合わせて24~25人ぐらい来ていました。女子は寄宿舎があり、男子は寄宿舎がなかったんですね。</p> <p>そういうような経緯があったんですけど、これは昔の話ですが、一つ今後の在り方として、寄宿舎等はある程度必要になると考えています。</p> <p>今、東洋町は全部、海南へ行っています。室戸高校にも来てないですね。これは非常に人口減も含めて、我々としては情けない現状です。そういうようなことも踏まえて、ぜひもう少しアクティブに、安芸高等学校を統合して考える必要があるのではないかと考えています。</p> <p>それと、こうした歴史と伝統に加えて、もう少し安芸地区の行政も含めて見直してみる必要があるのではないかと考えています。</p> <p>と言いますのは、歴史的に安芸というのは非常に文化が高い歴史があり、人材輩出の面からいえば、岩崎弥太郎はもちろんのこと、あるいは明治時代は黒岩涙香という素晴らしいジャーナリストがいます。</p> <p>そしてまた、書家の手島右卿兄弟、高松慕真、南不乗の三兄弟ですね。それから、弘田龍太郎もいます。</p> <p>最近では、オリンピックの話になりますけれども、我々の先輩で石本隆というバタフライのメルボルンオリンピックの銀メダリストもいます。</p>

安芸というのは、非常にこうした風土的に人材を非常に輩出している地域なんです。そうしたものを含めると、地域の魅力も含めて、学校を一つの拠点とした文化施設というか、行政も含めて考えていけば、なかなか現状の数字は非常に厳しいんですけども、もう少し開けた展開ができるのではないかと考えています。

まあ、ダムでいえば大きな一つの、東の大きなダムになるのではないかなど。人口上必要な、ひいては行政、県政も含めて、そうした安芸の魅力を発信すれば、あるいは移住促進に関しても、学校があり、文化施設があり、もちろん医療・福祉、全部の施設が必要ですけども、そうした魅力が一つの大きな促進材料になるのではないかと考えています。

これは夢でなく、鳥根県のある所で、子どもをそうやって地元のおじいちゃんおばあちゃんの家で預けて、そこで教育をさせるというような学校があり、こうした学校は全国的には増えています。そうした一つの夢ですけども、積極的に捉えていくべきではないかと、こういうような前例を見て思っています。

次に、これは学校の在り方ですけども、そのためにはもちろん教育内容、魅力、あるいは文武両道としての学校の魅力部分、そして校舎も施設も含めた、そうした受け皿というものが必要なことは言うまでもありません。

行政も、安芸市政あるいは自治体も、そうした観点で、学校づくりというものに取り組んでほしいというのが私の願いです。

もう一つ、中高の一貫教育ですけども、これはまだ始まってわずかですが、高知県には中村・高知・安芸と、生徒数はともかくとして、制度の趣旨は現状でも随分、教育内容その他では生かされていると感じており、成果も出ていることは事実です。

中学校の子ども教育内容が高まったり、あるいは進学についても、一つの実績は残していると、このように確信をしています。

この中高一貫教育は、県政のバランス上においても、西に中村があり、中央には高知南と高知国際がありと。東部から県立中学校をなくするということについては、行政関係者を含め、私は腹立たしく思っています。

それと、大変なのは校舎ですね。校舎については災害という一つの大きな観点から捉えなければいけない。

ということですが、この間、安芸中高の卒業生の理事会がありました。その時に色々意見を聞いたんですけども、それは感傷的にはなるわけですけども、やはり卒業生としては、何らかの形で校舎の記念碑ですね、メモリーというか、そういうのが欲しいなという意見が出ました。

現実に南側の南舎ができて、パワフルで素晴らしい校舎ができていますけれども。まだできて4年ぐらいですね。このために、授産施設が、避難タワーが近いからということで引っ越してきたという現実もあります。

地域住民も非常にあそこが大きな支えになっているという意味からしても、せめてグラウンドとか体育館、そうしたものを活用しながら何らかの形で残して、継続して利用する方法は考えられないのかと思っています。もちろん、財政事情があります。管理費も大変要ると思いますが、活用策は考えるべきだと思っています。

現実では、やはり安芸桜ヶ丘高校へ統合というのは、やむを得ないだろ

	<p>うし、子どものことを思えば仕方ないというような流れが、卒業生では多いということです。</p> <p>ただその場合も、やはり移転するにしても、かなりの充実的な、あるいは体育館にしても文化施設にしても、校舎にしてもこれが当てはまると思うので、そうした学校づくり・施設づくりは必要ではないかと、こう思っています。また、理事会では、そういう意見が多かったです。</p> <p>いずれにしても、先ほど申し上げましたように、私は、やはり学校というものは一つの大きな文化施設だと思います。単なる教育施設、プラス地域の大きな施設ですから。それを高知市へ私立へ抜ける、そうした現実はあるわけですが、教育内容その他、魅力のある学校、ブランドを高めることによって、それが一つの歯止めになると。ひいては人口の定着の大きな要になるんじゃないかというような観点で、ひとつぜひ取り組んでほしいと思います。</p> <p>そして、数字は大変厳しい、それは前から、ある程度の人口減の想定ですよね。これは、そういうような政策によって移住促進する、安芸市行政も力を入れているわけですから。そうしたもっと積極的な観点から統合というものを考えてほしいと、こういうことを申し上げたいと思います。</p> <p>時間がありませんので、非常に私の感傷的な、卒業生としての意見になりましたけれども、ひとつ、私の意見としては、以上です。あと補足は後をお願いしたいと思います。</p>
伊藤教育長	<p>小松さん、よろしくお願いします。</p>
小松副会長	<p>同窓会の副会長の小松です。よろしくお願いします。</p> <p>まず、南海トラフ地震の地震・津波の対応としまして、子どもたちの安全を考えますと高台への移転が必要であり、安芸桜ヶ丘高校の校地へ移転をしてほしいと思います。</p> <p>私事ですが、私は昭和41年に安芸高校を卒業しておりまして、在学中は普通科、それから工業科、商業科、家庭科と、この4つの科がありまして、それぞれの科が学校行事、勉強、部活動に持ち味を生かしながら、学校生活を過ごしたという思い出があります。</p> <p>それから、高等学校への適正規模の維持、また東部地域での活力ある拠点校としての学校づくりを考えますと、安芸桜ヶ丘高校と安芸高校を統合し、両校の特色を生かしながら教育をしてほしいと考えております。</p> <p>続いて、県立安芸中学校の件ですが、先ほど会長からも話がありましたが、平成14年から中村、高知南、そして安芸高校の3校で、中高一貫教育校として出発をしたと思っております。</p> <p>あれから16年が経過をしておりますが、現在、県立安芸中学校につきましては、昨年度の学校評価アンケートでは、皆生徒・保護者は県立中学校に入学してよかった。学校生活が充実している。それから、部活動も充実しているとのアンケート結果が出てきております。</p> <p>これにつきましても、現在の県立中学校が進学、部活動等々、一定の成果を挙げているものと考えています。</p> <p>これからも、東部地域の小学校卒業の子どもたちや、保護者も含めて、進路希望に応えられるように、各市町村立の中学校と県立中学校の2つの</p>

	<p>選択肢が必要ではないかというように考えます。</p> <p>これから少子化に向けて、大変な時を迎えますが、入学定員の見直し、また高校進学時の進路の柔軟性等も考慮し検討しながら、東部の拠点校として県立中学校が存続できればと、このように考えております。</p>
伊藤教育長	<p>半田会長さん、小松副会長さん、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、今お二人の方々からご意見をいただきましたけれども、委員の皆様方、お二人にご質問ご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。</p>
半田会長	<p>校名のことばかりが抜かっていました。私はやはり、安芸という言葉が最適じゃないかと思っております。現在、桜ヶ丘高校も安芸桜ヶ丘です。</p> <p>これはまた、色々感情的なそれぞれの問題があるんですけども、私としてはやはり、県立安芸中学校・高等学校ということをお願いしたい。安芸という校名のもと、工業科、商業科を含めて、総合高校的な意味が非常にこれから色彩を強めてほしいという思いです。</p> <p>それともう1点言い抜かりましたけれども、私、実は昭和31年の卒業ですが、新制高校の7回生です。その当時は、もちろん人口もすごく、学校の規模も1,300人、1学年に400人近くおりました。その時は、進学・スポーツ、ともに素晴らしかった。</p> <p>現在も国公立4年制大学への進学率が16%ぐらいですから威張れないですが、われわれの同級生も公立、県立、あるいは有名私立、そういう所へも行っていきます。</p> <p>それからスポーツも非常に盛んだったですね。私も剣道をやっていたけれども、天下の安芸高ナンバーワンと、そういうようなこともありました。</p> <p>ただし、昭和35年の安保闘争とか、学テの問題で学園が非常に荒れたんですね。その時に、安芸はなぜか言われるんですけども、非常に革新的な先生がおりまして、県議会へバスを仕立てて、生徒を引っ張り出して、そういう少し不幸な歴史もあるんですね。</p> <p>これは余分でしたが、卒業生としても非常に残念だなというような歴史もあるんですが、よい実績や人材育成を行ってきたということも含めて皆さんにご認識いただきたいと、こういうように思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。委員の皆さん、何かございますか。よろしいですか。</p>
各委員	<p>〈意見なし〉</p>
伊藤教育長	<p>半田様、小松様、どうもありがとうございました。</p>

イ 安芸桜ヶ丘高等学校黎櫻会

伊藤教育長	そうしましたら、次に、安芸桜ヶ丘高等学校の黎櫻会の安岡副会長様にご意見をお伺いしたいと思います。どうかよろしく願いいたします。
安岡副会長	<p>黎櫻会副会長の安岡です。よろしく申し上げます。黎櫻会総会で、県立安芸中学校の存続についてということで、出た意見を言わせていただきます。</p> <p>県立安芸中学校の存続について、賛成意見は、</p> <ul style="list-style-type: none">・ 県中を残すことで、最大 60 名は高校にそのまま進学するので、人員確保ができる。・ 県中をなくせば、高知市内の高校に進学してしまう。・ 安芸市内は、市立安芸中・清水ヶ丘中・県立安芸中の 3 校から自分にあった所を選んで行けるので、残してもらった方が選択肢が増える。・ 県中は部活動の種類が多く、それを目当てで来る可能性も大いにある。・ 県中から高校に上がる際に、普通科・商業科・工業科を選択できるようにしてほしい。また、中学生は身近に部活動等が見られるので、進路の参考にしてほしい。 <p>反対意見として、</p> <ul style="list-style-type: none">・ 県立中学校ができる際に、郡部の方では反対の意見が元々多かった。・ できた当初と目的が違っているのではないだろうか。・ 県中自体が定員割れで簡単に入れるようになって、高校受検をせずに入れるという安易な考えになっていないだろうか。・ 県中は停止してほしい。郡部の中学校は成り立たなくなる。 <p>というのが、反対意見です。</p> <p>校名については、</p> <ul style="list-style-type: none">・ 校名が変われば、愛着がなくなる。・ 安芸工業から安芸桜ヶ丘に変わった際にも、安芸工業出身の方々が離れていった経緯もある。・ 安芸という名前は残してほしいが、安芸高校にはしてほしくない。逆に全く違う名前にしてイメージを一新してみてもいいかでしょうか。・ ありふれた安芸総合みたいな名前はやめてほしい。 <p>施設・設備についてですが、</p> <ul style="list-style-type: none">・ そもそも今の安芸桜ヶ丘にある施設では、県中を含めた生徒を収容できない。・ 教室、体育館は今のままでは全く、数・広さが足りない。・ 交通の安全を考えて、周辺道路等の整備が必要。 <p>その他では、</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今現在の安芸高校に魅力があるのか。・ 卒業式に参加した際、進路一覧を見たら、あまりにも専門学校や短大が多いのではないか。進学校としてもう少し頑張ってもらいたい。・ イメージを一新する必要があるのではないか。・ 東部地区から高知工業・高知東工業にいった子どもに、なんで安芸桜ヶ丘に行かなかったかと聞くと、機械科に行きたかった。あまりイメージがよくないと言われた。 <p>反対意見の補足として、私自身の意見ですけど、安芸市での中学校統合</p>

	<p>の説明の会でも県立中学校への批判もありました。反対に安芸市は、中学校の経営から手を引き、県立中学校への統合をという意見も出ていました。</p> <p>現在、県立中学校の保護者の立場から意見を言わせていただくと、「県立中学校自体が定員割れで簡単に入れる」「高校受検をせずに入れるという安易な考えになっていないだろうか」は、全く間違っていると思います。教員も生徒も頑張っていますし、県立中学校の生徒は上がる、上がれないを意識して勉強を頑張っています。</p> <p>校名についての補足ですが、私たち工業高校卒業生は、50周年を節目に安芸工業は歴史でいいと思っています。しかし、安芸桜ヶ丘高校の卒業生は15年足らずで校名がなくなるのはかわいそうです。安芸桜ヶ丘高校の校名は、近年、全国区になりかけています。フードコンテスト、民家の甲子園等です。</p> <p>50周年の寄付に回った時にも、先輩たちに「校名が変わって愛着がなくなった。」と言われました。</p> <p>黎櫻会としては、高知県立安芸に桜ヶ丘を入れた校名にさせていただきたい。百歩譲って、工業までとは言いません。後輩のためにも桜ヶ丘は入れていただきたいです。以上です。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、ただ今の安岡副会長さんのご発言に関しまして、ご意見とかご質問ございましたらお願いをいたします。</p>
八田委員	<p>校地を安芸桜ヶ丘高校の所に移すということを前提に今考えているんですけど、その時に私のイメージでは、駅がものすごく近くなって非常にアクセスが良くなって、すごいメリットだと思っていたんですけども、途中のお話で、周辺道路が危ないというようなご意見があって。それはどんなことなのか、もう少し詳しくお願いします。</p>
安岡副会長	<p>自分は昭和57年に卒業しているんですけど、その当時から周辺道路ってほとんど変わってないんです。学校の前は広いですが、それを東に行くと、西八幡様の所から国道に出ますが、そこは昔から事故のある所で、今現在もやはり車が入ってくると、学校の方から来るとよく事故がある。子どもの事故があったかどうかは知りませんが、自分らが通るにしても危ない所です。</p> <p>やはり、もしこの生徒数があそこへ来るのであれば、あの辺の道路整備をしていただかないと、多分何か起こるような気がします。駅の方は非常に道が広いですが、本当に極端に道が狭いんですね。そういうことです。</p>
平田委員	<p>駅の西の方ですか。</p>
安岡副会長	<p>駅の東、駅の方と反対側です。駅の方に向いては広い道なんですけれども、その反対側、東側に行く方が急に学校を過ぎたら狭くなるんです。</p>
八田委員	<p>学校を過ぎて狭くなるんですね。そこは今、高校生が自転車で通るような道ということですね。</p>

安岡副会長	<p>自転車も通っています。そこでは車とのすれ違いができないことはないのですが、昔から全然変わってない、カーブがほぼ直角に曲がっているわけです。それで、車同士の事故も結構ある。今まで自分らが通っている時に、事故があったということはないと認識していますが。</p> <p>やはり安芸市へも、学校を統合するとか、せんとか、そういうこと関係なしに何度か、道を安芸病院の方に抜けるようにしてくれとかいう要望は、PTAの時にしたことがあります。</p>
八田委員	分かりました。ありがとうございます。
伊藤教育長	そのほかにございますでしょうか。よろしいですか。
各委員	〈意見なし〉
伊藤教育長	安岡様、どうもありがとうございました。

ウ 安芸中学校・高等学校保護者代表

伊藤教育長	次に、安芸中学校・高等学校の保護者の代表であります清岡様からご意見をお伺いしたいと思います。どうかよろしく願いいたします。
清岡PTA会長	<p>安芸中学校・高等学校のPTA会長の清岡と申します。よろしく申し上げます。今日は保護者という立場で意見をということだったので、お話をさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、県立安芸中学校の存続どうこの話が出たというのは、今まで中高一貫制でうまくいっているのに、どうしてこういう話が出てくるのかなというのがあって。それがまず一つ目です。</p> <p>人口減どうのこうのということだったんですけども、それがあからというの、やはり前置きとして少しどうかなというところは一つありました。</p> <p>まず一応、保護者という立場で言いますと、自分の子どもは2人とも県立中学校へ行っておりまして。それから従兄の子も2人、進みました。それぞれやはり、目的意識を持って進みました。県立中学校へ行っこれがしたい、こういうことがしたいから行くんだ、将来的に進学はこういう方向で行くからという形で行きました。</p> <p>一人は、うちの従兄は、高知大学へ進学しましたし、今在学中の息子は陸上がやりたいということで行っています。</p> <p>それで、中高一貫制のメリットとしては、やはり、中学校でありながら高校生の先輩の姿を間近に見られる。そういう姿を見ながら、自分も勉強なりクラブ活動なりができるということで、目標設定が丁寧に行けるといところがあると思います。</p> <p>やはり、日々からそういう形で、同じキャンパスの高校生の先輩の姿を見ながら、中学生からやっていくと、それぞれ将来の進路とかについてもメリットは大きいとは思っております。</p> <p>それから、安芸中高の場合、先生方も努力をいただいておりますし、</p>

やはり中学校・高校、垣根のない教育方針でやっていただいて、ほかの中高一貫制の学校とはまた違う、いい面がいっぱい出ていると思っています。子どもたちも先生方に親身になって教えていただいております。

それから、先ほど安岡会長が言われていましたけれども、県立安芸中学校では中学3年生になる時に、安芸高校に進学してかまわないかどうかという、進路の基準のテストがちゃんとありまして、それで学力をきちんと付けていくような形で指導をしていただくという、そういうようなメリットがあります。

あと、地元の方に聞くと、やはり進路の選択肢が広がるということ。そういうことで、やはり残してほしいとか、このままの体制でいってほしいと思っています。

子どももそういう形で、小学校の時から話をして、ここに行ったりとか。あと、小学校6年生の時に、やはり仲間同士で話をするらしいですね。4年ほど前に安芸第一小学校のPTA会長をやっていましたが、その時も仲間同士で県立中学校に行こう、やっぱり市立に行こうとかいう形で。そういう形の選択肢も一つはあってよいと思います。

それから、地域の方に聞くと、残してほしいと。県立中学校はこのままでいってほしいという声は多いです。選択肢の一つという、そういう形でメリットは、やはりあるとは思っております。

PTA活動についても、中高垣根のない、一緒になってPTA活動をやっていくという、そういうメリットも。中学校の保護者の方も高校の先生とかと一緒に話ができるとか、そういうふうな、やはり一貫制のいいところを生かしたことをやっておりますので、このままの流れでいってほしいという気がしています。

あとは、地元の小中学校とかの兼ね合いと共存とか、そういう面がやはり、いい意味での競争とか、そういう意味で両校がうまいこといくように、そういう形の流れをやっていくかといけないかなと思っています。ぜひ、そういうのをやっていただきたいと思います。

私としては、物部川から東といいますか、香南市から、いわゆる香南市の小学校の生徒もやはり安芸中高に来てほしいというふうな形のことは思います。

このまま県中がなくなると、どうしても先ほどから言われていますように、高知市内に行く子がやはり多くなると思います。そうすると、東部自体がすたってくると思いますし、それを食い止める意味でも、特にこういうふうな中高一貫でやっていくと、そういう形で東部の拠点校として、振興していくとか、流れをつくらせていただきたいと思っています。

保護者としては、もう本当にそういう形で、今の流れでいってほしいと思っています。

あと、校舎の位置ですが、安芸桜ヶ丘高校へという形が言われていますけれど、私としては今の場所がいいのですが、やはり津波とか、そういうことを考えると、地元の人と安芸高校についてどうですかという話をしても、「やっぱりちょっと津波が心配やね。」という声を聞くことがありますので、そういう意味では、安芸桜ヶ丘高校の高台であれば、そういうことがリスクとしては少なくなるかなと思います。

やはりそうなる、地域としてのランドマークとか、そういう意味

	<p>で、OBの方々とか在校生、それから将来入学してくる子どもたちにも誇れるような感じの建物にしていただけたらと思います。</p> <p>こういう災害のことを考えると、現在の場所に拘るようなことを言っても仕様がなかなというところはありません。</p> <p>とりとめのない話をしましたけれど、保護者としては、一応そういう形になります。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、今の清岡様からのご意見につきまして、ご質問ご意見ございましたらお願いをいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
各委員	〈意見なし〉
伊藤教育長	清岡様、どうもありがとうございました。

エ 安芸桜ヶ丘高等学校保護者代表

伊藤教育長	<p>そうしましたら、次に、安芸桜ヶ丘高校の保護者の代表、坂本様からご意見を伺いたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。</p>
坂本PTA会長	<p>私、桜ヶ丘高校のPTA会長の坂本と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、安芸桜ヶ丘高校と安芸高校の2校の統合について意見を申します。県立高等学校の再編振興計画において、安芸桜ヶ丘高校と安芸高校の統合案が新聞紙上で示されております。東部地域の少子化がこのように加速するなかで、両校ともに例年、やはり定員割れとなっております。</p> <p>そういうこともあり、学校行事や部活動等、学校の活性化という点において、非常に難しい局面に立たされております。</p> <p>先ごろのPTA役員会において、生徒数が増えるのはいいことだ。両校の統合によって、活力ある学校として生まれ変わるのであれば、大いに賛成であるという意見で一致しております。</p> <p>あと、今後発生するといわれております南海トラフ地震において、やはり、生徒の安全や地域の避難場所という観点からも、安芸桜ヶ丘高校の敷地の活用が望ましいと考えます。</p> <p>次に、県立中学校の存続について申し上げます。この件については、東部地域の中学校においては、それぞれの立場でそれぞれの想いもおありになることと思います。東部地域の生徒増が望めないという現状において、県立中学校の存在が各地域の中学校の存続に大きな影響を与えているのではないかとすることも危惧します。</p> <p>また、遠方の室戸市においても、県立中学校を目指して来るということは、室戸高校の存続自体にも、少なからず影響を与えるのではないかと危惧いたしております。</p> <p>それから、この前のPTA役員会で、県立中学校へ入学をされたお子様で、高校へ進学をし、大学へも進学をされたと。ただ、途中で迷いも持たれた</p>

	<p>まま進級・進学されたお子様もおいでになるという意見もございました。</p> <p>ですので、どうかもっと、地域の教育関係者の方や地域住民の皆さんの不安とか意見とかを十分に聴いていただいて、適正な判断をしていただけたらいいかなと思っております。</p> <p>最後に、要望・意見について申し上げます。統合するにあたって、科の再編等も行われるとは思いますが、その際に、やはりこれから進路を決めるにあたって、カリキュラム等を早めに示していただきたい。そうすることが、進路選択の一つになるかなということです。</p> <p>あと、安芸高校には安芸桜ヶ丘高校にはないテニス部とか弓道部とか、結構部活がございます。そういう部活を今やっている子どもたちが、さて安芸桜ヶ丘高校の敷地へ行って、自分たちが続けられるのだろうかとか、そういう不安を持っているのではないかなと思いますので、そういう設備の面でも十分地域のニーズに応じていただいて、対応していただきたいと思います。</p> <p>そんなところですが、文武両道の活力ある学校づくりを目指すということです。やはり東部地域の教育の拠点校となるためには、子どもたちがぜひとどまるような施策等をお願いしたいと思っております。以上になります。</p>
伊藤教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、ただ今の坂本様からのご意見に関しまして、ご質問ご意見等ございましたらお願いをいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
各委員	〈意見なし〉
伊藤教育長	<p>坂本様、どうもありがとうございました。</p> <p>そして、どうも皆様方もありがとうございました。</p>

(3) 東部地域及び香南市の市町村教育委員会からの意見聴取と質疑応答

伊藤教育長	<p>そうしましたら、続きまして、市町村の教育委員会からの意見をお伺いしたいと思っております。高等学校課の方から説明をお願いいたします。</p>
山岡企画監	<p>9ページをご覧ください。資料3でございます。各市町村教育委員会の意見をご紹介させていただきます。</p> <p>まず、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の統合、そして校地を安芸桜ヶ丘高校に一本化する点についてご紹介します。</p> <p>室戸市からは、南海トラフ地震等での生徒の安心安全を考えると一本化はやむを得ないというご意見がありました。</p> <p>安芸市からは、統合して安芸桜ヶ丘高校の校地に一本化する案については、現在、両校にある学科は残してほしい。そして、安芸中学校・高校の校舎は耐震補強をされていても、目の前が海岸であり、屋上が避難所であっても恐怖心を抱くと思うので、安全で安心して楽しく学べることができる校地にすべきという意見がございました。</p>

また、既存施設の利活用については、地域の声も聞きながら協議を重ねていく必要があるという意見がありました。

東洋町からは、災害から子どもを守るという観点から統合は必要というご意見がありました。

奈半利町からは、両校が持つ特徴や役割を受け継ぎ、地域のニーズに応えるとともに、南海トラフ地震対策として、より安全な場所と施設環境の充実を求めるというご意見がありました。

田野町からは、安全安心に学べる環境という点から、安芸桜ヶ丘高校の校地への移転に賛成。そして、進学と就職の両方に力を注ぎ、地域から愛される学校を求めるというご意見がありました。

安田町からは、活力ある高校の必要性、そして南海トラフ地震への対応を踏まえ、安芸桜ヶ丘高校の校地への一本化には賛成であるというご意見がありました。

北川村からは、子どもの命を守る必要性から統合に賛成であり、先行きを見据えた施設整備も必要というご意見がありました。

馬路村からは、活力ある学校として存続するため統合はやむを得ない。災害対策を踏まえた校舎にしてほしいというご意見がありました。

芸西村からは、部活動の活性化や南海トラフ地震への対応、子どもの命を守るという視点からは、安芸桜ヶ丘高校の校地への移転には賛成であるというご意見がありました。

香南市からは、学校の活性化や生徒の安全確保の点から、統合することが望ましい。東部地域の高校教育の拠点として、多様な教育機会の場を提供ができるよう、学科や教育課程の編成など、配慮をお願いしたいというご意見がありました。

以上のとおり、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の統合及び校地を安芸桜ヶ丘高校の場所に一本化することについては、10市町村とも賛成でございました。

次に、県立安芸中学校の存続の有無についてご紹介します。

室戸市からは、小学校を卒業時点で地元の生徒の流出の反面、大勢の生徒の中で教育活動や部活動をしたいという声もある。これまでの役割、現状、今後の役割について設立時の趣旨を総括したうえで、子どもたちにとって何が良いのかで判断してほしいというご意見がありました。

安芸市からは、市町村立の中学校の生徒数が減少するという問題もあるが、子どもたちの立場からすると進路に対する選択肢が広がり、子どもたちへの公平性を考えると、東部地域にも残すことが必要ではないか、というご意見がありました。

東洋町からは、子どもの進路の選択肢があるにこしたことはない。子どもたちにとってより魅力ある学校づくりに取り組んでほしい、というご意見がありました。

奈半利町からは、地教委としても魅力ある学校づくりに取り組むが、子どもや保護者のニーズを踏まえ、私立学校と同様に進学先として選択できる学校づくりを検討してほしい、というご意見がありました。

田野町からは、東部地域で唯一の中高一貫教育校であり、進学先の選択肢を狭めないようにしてほしい、というご意見がありました。

安田町からは、3つの地域に中高一貫教育校を設置することは、地理的

	<p>条件からも公平であり、各地域に県立中学校が進路の選択肢としてあることが必要というご意見がありました。</p> <p>北川村からは、子どもたちの進学先の選択肢が広がるという点で現在も受け入れられている。北川村も地域の小中学校が一体となって魅力化に取り組んでいるというご意見がありました。</p> <p>馬路村と芸西村からは、県が現在の県立中学校の成果を評価し、あるいは必要性を評価しているのであれば、存続でよいというご意見がありました。</p> <p>香南市からは、生徒数の減少が大きい中学校があることや、地震や津波対策のため統合も検討しているので、3学年合わせて34人が県立安芸中学校に進学していることは看過できない。</p> <p>しかし、東部地域唯一の中高一貫教育校で、生徒の選択肢の一つとしての役割を担っており、現在までの成果を踏まえて判断すべきだということでした。</p> <p>存続の場合には、高校の統合と併せて、特色ある学校づくりを推進してほしいというご意見がありました。説明は以上です。</p>
伊藤教育長	<p>各市町村教育委員会様からの意見ということですが、報告という形になりましたけれども、委員の皆様からただ今の報告につきまして、ご意見ご質問がありましたらお願いをいたします。</p>
八田委員	<p>香南市が一番厳しい言い方をされていて、県立安芸中学校の方に34名が行っていて看過できないという非常に厳しい言い方をされています。ただし、香南市が34名ってそんなに厳しいのかなという気もするんです。</p> <p>むしろ、ほかの東部の市町村で本当に厳しいという意見、まあ厳しいながらも一定の評価をさせていただいているように思うんですけども。逆にそこでちょっと遠慮されているところもあると思うので、どういう支障が具体的に今起こっていて、市町村が困っているのは一体どういうところなのかなと。これが、もし具体的にあればお願いしたいんですけど。</p>
山岡企画監	<p>現在、県立安芸中学校に児童が抜かれているというよりも、元々東部地域での児童・生徒数の減少が激しいですので、支障としましては、運動部活動でなかなかチームが組めないとか、そういった支障があるということなんです。</p> <p>ただ一方では、やはり児童の選択肢を広げる意味もあるというところで、一定評価をさせていただいているというふうには認識しております。</p>
八田委員	<p>部活動は、かなり大きな要素とっていいですか。</p>
山岡企画監	<p>はい。東部地域では元々児童数が減少していますので、県立安芸中学校に抜けなくても、今厳しい面はあるとは思いますが。</p>
竹島委員	<p>八田委員さんの意見と少しかぶるんですけども、香南市の方から1年から3年生を合わせて34名ということでしたが、この全体の数を見ると、男子の数がもう本当に極端に少なくなっているんですけども、そこら辺、</p>

	<p>この34人の男女の比率というのは、今、分かりますか。</p> <p>私も今、香南市の意見を聴くまでは、途中で清岡さんが香南市の方にもちょっとアピールをしてほしいみたいなことをおっしゃったので。</p>
清岡PTA会長	<p>多分、香南市の方から、私の息子が陸上部なんですけれど、香南市の方から陸上をやりてに県立中学校に通っているという生徒がおります。多分それが34名だと思います。陸上でこっちに来る子が多い。</p>
竹島委員	<p>ちゃんと目標を持ってなんですね。</p> <p>清岡さんのご意見を聴いた時に、いい意見だなと思ったのですが、今の香南市の意見を見るとそんなことが書かれてあったのでお伺いしました。</p>
清岡PTA会長	<p>そういう形で、安芸中高がこれに力を入れて、校長先生も力を入れてくださっているんですけど、そういう形でやはり、やりたいことで来ていただけるんじゃないかとは思っております。</p>
竹島委員	<p>やはりこの存続というのは、本当に私も、バランスを考えた場合とか、公平性を考えた場合、とても大事なことだと思うんですけども、ここでやはり男子の数が少し気になったので聞いてみました。</p>
清岡PTA会長	<p>今年の県立安芸中学校の新入生も女子が大変多いんです。やはりそれも小学校の時にグループがあって、男子がこっち、女子はこっちという話をするがありました。そういう形でよく話していました。</p>
竹島委員	<p>はい、ありがとうございました。</p>
木村委員	<p>皆さん方のご意見と市町村のご意見を合わせてお聴きするなかで、安芸高校と桜ヶ丘高校の統合、一本化ということについては、ほぼ全員の皆さん方が納得もされておられますし、そのほか子どもの津波対策も含めて、その方が多分安心だろうと。</p> <p>また、一定規模の高校で、東部の拠点校として、さらに中身を充実させることの方がよりいいのではないかなというご意見だと思いますし、私もそのとおりだと思います。</p> <p>一番意見が分かれるところは、中学校を継続させるのか、募集停止にするのかという点でございますけれども、3つの大きな要素があって、一つは県内の東部・中部・西部、それぞれの所に中高一貫教育校があると。これは本当にある意味、公平性という意味でも必ず東部地区に必要じゃないかなというのが1点です。</p> <p>それと、少し言い過ぎかも知れませんが、それぞれの中高一貫教育校でそれなりの実績を挙げて、子どもたちが6年間の中で本当に努力をして難関校へも行っていきますし、進学でもスポーツでも確実に実績を挙げてきていると。この実績を見逃してはいけないんじゃないかなというのが、2つ目です。</p> <p>もう1点は、このご意見の中にもありますが、いろんな事情で地域の中学校の小規模化が大きな課題で、反対をされる方もおいでるかも知れま</p>

	<p>せんが、子どもたちにとっていくつかの選択肢があつて、この県立中学校へ行くという選択肢、もしくは私立へ行くという選択肢もあるかも分かりません。それと、地元の中学校へ行くという。</p> <p>子どもたちなりに考えて、選択肢があつて選べるんだというようなことが、とても子どもたちにとっては必要ではないかと私自身は思います。</p> <p>その大きな3つの要素から、少し反対のご意見もあつたやに思いますが、この県立中学校というのは、存続するべきではないかなと私は感じました。</p>
伊藤教育長	<p>そのほかの委員さん、ご意見ございませんでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>〈意見なし〉</p>

(4) 会場からの意見聴取

伊藤教育長	<p>そうしましたら、今、会場にお見えになつています皆様方から、ご意見をお伺いしたいと思います。</p> <p>ぜひ、皆様方にご意見を聴かせていただきたいと思つておりますので、どうか挙手のうえ、お名前をおっしゃつていただいてご発言をお願いしたいと思います。どうかよろしくお願いをいたします。</p>
半田会長	<p>一つだけ、県の教育行政の考え方をお伺いしたいんですが、この少子化問題は私立学校も同じですよ。これから先、ますます子どもの引っ張り合いとがあると思います。</p> <p>現実に高知市内の私立高校では学級数を減らしたりする反面、入試の緩和策というか、それはもう、私立は経営が大事ですから。そういう意味がこれからますます、人口減・生徒減という観点からすれば、非常に大きくなると思います。</p> <p>そのためには、やはりこの統合、その他の再編振興計画で、教育行政としての教育費の負担、あるいはバランスということ考えた場合に、一番先にやはり県立編成、県立高等学校の場合は、県立高校の内容の充実とか学校の向上策、これがやはり観点からすれば一番大事になると思います。</p> <p>ますます、大学も現実にそのような状況も起こつていきますので、そうした観点も踏まえて、私は県立の向上策と、あるいは人口のバランス、定着、そうした観点を一つ持つておいていただきたい。</p> <p>その意味でも、その観点を踏まえて編成・統合を考えて欲しいと、このようなことを思つていますが、教育行政の観点からもしあれば教育長の意見を一言お伺いしたいと思います。</p>
伊藤教育長	<p>はい。今、半田会長からお話があつたとおりだというふうに思つております。</p> <p>今回、この後期の再編振興計画にあつて、全ての学校について、やはりしっかりと魅力ある学校づくりを推進するようと思つております。</p> <p>それは学力面でもそうですし、部活動であつたり、地域の市町村と連携した活性化、そういったものにやはり取り組んでいかないと、この少子化</p>

	<p>のなかで、それぞれの学校として、県立学校としての役目が果たせていけなくなると考えております。</p> <p>この後期の再編振興計画の中において、それぞれの学校で、そういった魅力化にしっかりと取り組んでいきたいという形で進めております。</p> <p>ぜひ、その進学面、それから部活動、そのほか地域の活性化策との連携みたいなもののなかで、魅力ある学校づくりを進めていきたいというふうに思っていて、そういう方向で取り組んでまいりたいと考えております。</p>
<p>半田会長</p>	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>高知追手前高校の改革は、一つの流れが変わりました。一つの大きな施策を打つということで成功していますので、ぜひ、そうしたことの拠点づくりをお願いします。</p>
<p>安岡副会長</p>	<p>一つ教えていただきたいことがあるんですけども、平成 28 年度の 2 月に安芸高校の方に新校舎が建ちましたよね。あの校舎、この話は我々、立場の者が集まった時によく出てくるんですが、なんで移転するのにあの建物を建てたか、ということをよく聞かれます。</p> <p>当時、建設中の時から、安芸市と話をしていたけど、県のやりゆうことはよう分からんというような返答も貰ったんですが、自分が県から返答を貰ったのは、あの建物を建てたのは今の子どもを守るためだと。現在の生徒を守るために、あの建物を建設したと。</p> <p>そうやって聞いたものですから、最近はその部類の話が出て、あれは今の子どもを守るために建てたがやとって言うたら、誰ももったいないとは言わないんですよ。さすが、県やなというんですけど、本当にそういうことで建てたんですか。</p>
<p>山岡企画監</p>	<p>参考資料 4 の方に、私の方がそこは省きましたけれども、備考のところにもそういったことを書いております。</p> <p>表の下の方に書いていますけども、安芸高校の南舎改築に当たっては、被災状況予測の公表後であったため、「津波被害が予測される中で、税金を使って改築するとか」という意見もありましたけども、「現状の中で被害を軽減できる対策をとる」との説明で、改築を行ったというところでございます。</p> <p>なお、改築に際しては、想定される L2 クラスの耐震及び浸水深 5 m となる津波に耐えられる構造計算を行っているところでございます。</p> <p>ただ、学校としては、より安全な北舎を避難場所としているところでございます。</p> <p>それから、後期の計画の実行に当たっては、想定外まで想定するというところで、より安全を求めるなかで、やはりより安全な所を求めていくということで、統合したうえで校地を安芸桜ヶ丘高校に一本化するということで、今、取りまとめをしているところでございます。</p>
<p>安岡副会長</p>	<p>それでは、そうやって聞かれた時に、県は今の子どもを守るために建てたと言うたと、言っただけかまわらないということよね。そういうことですね。そうやって言うたら誰ももったいないとか言わないんですよ。</p>

	<p>ただ、あの建物を工事している時から、自分はそういう建築関係ですから、よく見ましたけど、本当にしっかりとした建物をつくったと思います。高校がなくなっても、あの建物は十分に津波避難タワーとして使えるぐらいの建物だと、基礎工事から見たけれど、そう思っています。</p>
山岡企画監	<p>そのような考えで間違いがないということです。現状のなかで被害を軽減する、今の生徒を守るということです。</p>
細川氏	<p>細川と申します。 安芸桜ヶ丘高校の方は高台というイメージもありますけども、高台で安全だという意識があると思うんですが、ただ、その後ろが山手になるので、あそこへ遡上した場合に、あその波の高さが、極端に言えば20~30mになるかも分からないというのがあるんですけども、その辺は考慮に入れたなかでのこと、あとそれを抜きにしても、高台だから大丈夫というところから考えておられるのでしょうか。</p>
山岡企画監	<p>判断としては、安芸桜ヶ丘高校の方は浸水深が5mですが、グラウンドとか体育館の方が浸水の幅が狭いというところで、より安全な所ということ、安芸中学校・高校と安芸桜ヶ丘高校を比較したうえで、より安全な所をと、今のところ考えています。</p>
伊藤教育長	<p>また、津波は補助グラウンドの方へ抜けるとなっています。</p>
細川氏	<p>そうじゃなくて、遡上をすることを考慮に入れているかどうかです。遡上すると、あそこは極端に言えば、上の安芸ドームの地区も上がれないかと言われるぐらいに、言われているんです。</p>
山岡企画監	<p>基本的に避難場所として、安芸市の総合運動場（補助グラウンド）の方に避難しやすいといった面もあると思っております。</p>
細川氏	<p>あの避難場所が、遡上を入れてないところでの避難場所なんです。</p>
伊藤教育長	<p>今お話にあるように、遡上をしていって、安芸総合運動場自体の危険性もあるというようなことでしたら、そこはまた、そうなのかを確認する必要がありますので。そこはまたしっかりと、どういった所に確実に命が守れる場所があるのかということ、それは私どもの方としてしっかりと関係機関とも再度確認をさせていただきます。 まさに、その想定外を想定するということになってきますので、そこはしっかりとやらせていただきたいと思います。</p>
細川氏	<p>学校全体の中で、安芸桜ヶ丘高校の方は常に安全だから安全だからという、その安全が今の遡上を考えに入れてないなかでの安全だと思うので、ぜひ学校として専門家の方に聞いていただきたらと思います。</p>

伊藤教育長	<p>現在、体育館とか南校舎は浸水する可能性はありますけれども、北舎は大丈夫だろうという話の中で、なおかつ、安芸市の総合運動場、ここ自体が防災拠点の施設になっておる場所だと聞いておりましたので、そちらへ逃げれるというところがあると思っておりました。</p> <p>そこがまだ危険の可能性があるとというようなことを想定する必要があるのであれば、そこはまたしっかりと確認をして、対応をしていくということになると思います。</p>
小松氏	<p>小松です。</p> <p>すみません、2点お聞きしたいのですが、まず統合に当たって、先ほどから魅力、魅力というお話があったんですけど、もちろん中高一貫の県立安芸中学校と安芸高校での魅力と、安芸桜ヶ丘高校での商業・工業を基にした魅力は、統合しても発揮されるんでしょうけど、そのほかに統合したことによって、さらなる魅力、カリキュラム、また新たな学科は考えているのか。</p> <p>あともう一つは、平成34年度にできるというお話なんですけど、その際に、県立安芸中学校と安芸高校が安芸桜ヶ丘高校に来た場合に、今の校舎では絶対に施設として不十分であります。それと、運動場。</p> <p>あと、先ほども安芸桜ヶ丘高校の坂本PTA会長の話にもあったように、各クラブ等の施設も全然違いますので、現状、そういう施設がない状態で、どういうふうに受け入れるのか。</p> <p>また地域に今、余分な敷地がないように思えるんですけど、その辺の考えも踏まえて、この統合にいつているのか。</p> <p>その中で安芸桜ヶ丘高校の校地に持ってくる場合、改修・新設する場合には、安芸高校の生徒は現在の校舎が使えるんですけど、安芸桜ヶ丘高校の生徒はその際に、授業等、障害が起きる場合も考えられるので、この平成34年目途というなかで、そういうふうな工程、それと地域を、先ほども安岡副会長さんのお話があったように、地域の交通等も考えた工程を見据えて、平成34年までに建設をするという考えで、この話が動いているのか。その2点を聞きたい。</p>
山岡企画監	<p>魅力ある学校づくりというところで、カリキュラムの部分については、資料の6ページにございましたように、今、普通科・工業科・商業科というところで、工業科・商業科の中身については、東部地域の中学生のニーズとか、県内企業の求人等のニーズを踏まえて、8月末までに一定決定していきたいと予定しております。</p> <p>普通科につきましても、今のところこの3つのコースを設け、国公立進学コースの理系・文系、それから私立大学進学コース、地域創生コースといったようなことで、魅力づくりにも取り組んでいるところです。</p> <p>そして、部活動につきましては、7ページにもありますように、運動部活動強化拠点校として体制を充実していきたいと考えております。個人競技、団体競技、それぞれ今の安芸高校、安芸桜ヶ丘高校でも特色ある取組をしていますので、そういった部活動が引き続きできるように考えていきたいと考えております。</p> <p>重点的に体制を整える部ということで、陸上競技、体操競技、弓道、剣</p>

<p>野町氏</p>	<p>道、卓球、ソフトテニスとか、また団体競技でも、野球、男子バスケット、女子バレーとかを入れていますので、そういったところで充実していきたいと考えております。</p> <p>そしてまた、施設整備につきましても、一定、新体育館とか校舎の改修・改築なども必要などころがあると思いますので、それについては、まだ具体的な実施設計などは出てきておりませんが、今後、統合という方向が決まりましたら、施設整備についても着手していきたいと考えております。</p> <p>安芸市の野町です。よろしく申し上げます。</p> <p>2点ございます。一つは、県立安芸中学校の存続、あるいは募集停止というところの問題でありますけれども、先ほどそれぞれの市町村の教育委員会のご意見がありました、先ほど委員さんの方からもありましたとおり、香南市の方が一番厳しいご意見で、34人抜けるのが看過できないという話がありました。</p> <p>そこで、大変意外だったのが、中芸の町村の教育委員会につきましては、存続に賛成というようなご意見が主だったというふうに思いますけれども、この15ページの市町村の中学校別の卒業生数の推移というところで、平成30年3月の、特に中芸地区の中学校の卒業生を見ても、5町村で合計56人と。それぞれ中学校13人ずつというふうなところになっております。</p> <p>私も実は、安芸市の市立安芸中学校の出身でありまして、今現在安芸中学校も、私がいたころには300人ほどおりましたけれども、今120人ぐらいだろうというふうに思います。</p> <p>それでも、例えば、野球部あるいはサッカー部、あるいは吹奏楽部等々の団体でのクラブ活動というのは、もうきゅうきゅうでございます。当然、中芸などに関しては、ほとんどできない、常に合同チームといったところであります。それはそれでいいところもあるかもしれませんが。</p> <p>先ほど進学の公平性とか、いろんなことのお話がありましたけれども、その中で市町村の生徒の立場に立って考えると、市町村の中学校があまりにも極端に少ない。これから県立中学校は存続をしていくと、あるいは教育委員会もそれをよしとするということであれば、さらに中芸地区なんかからは特に抜けていくわけです。</p> <p>安芸市は市の英断で清水ヶ丘中学校と安芸中学校が統合するという方向にしていますので、300人規模の中学校は維持されるだろうというふうに思いますけれども。</p> <p>人生の中で一番多感なこの時期に、やはり地域において、中学校で30人40人みたいな形がこのままずっといく、あるいはさらに少なくなるというふうなことに、今回は県の教育委員会の話なんです、それぞれ、あまりにも極端に少なくなる市町村の中学校に対して、教育委員会に対するご指導という点でいえば、どういったお考えを持たれているのかなというのを、お聞きをしたいと思います。</p> <p>それともう1点は、高校の校区制の問題です。これはもう、校区制がなくなってから10数年、もう20年ぐらい経つんですかね。私、校区制がなくなった時に、おそらく東部はずいぶん高知市内の高校に抜けるだろうなというのは、想定をしておりました。私の娘も2人とも、高知市内の高知</p>
------------	--

<p>伊藤教育長</p>	<p>小津高校と高知追手前高校でありますけれども、やはりそうなってくるんですね。</p> <p>先ほど、東部地域の中学校の卒業生が、この地域に残るのが47%と言いましたか。だんだん少なくなっているんだろうと思います。</p> <p>そこら辺、いわゆる高知市内の高校と東部の、いわゆる校区というものを、人数がだんだん少なくなってきたなかで、復活をしていくというようなお考えはないのか。この2点についてお伺いしたいです。</p> <p>県教委へのご質問ということですので、私の方からお答えをいたします。共に大変難しいご質問です。一つ目の市町村教委に向けての指導というか、それぞれ、これだけ人口が減って、高齢者が増えて子どもが少なくなって、学校がどんどん減っているなかで、それぞれの中芸地域の町村においても、やはり各学校の特色づくりに力を入れて、移住者を増やしながらか、若い方にそこに住んでもらってというような取組は、それぞれの5つの町村でもうされております。</p> <p>高知県全体がそうですけども、放っておいたら39万人ぐらいまで人口が減る。それをなんとか55万人までというような、全体の計画も持って取り組んでいるなかです。</p> <p>やはりそれぞれで、それぞれの地域に人が来てもらう、若い人が増えてもらうような取組を進めていくところをやりながら、学校の魅力を高めていく。それぞれで特色を持って、地元に通ってもらえるという取組を進めていくという、そういう個々の市町村の取組を応援するというような恰好にしかならない。</p> <p>あとはやはり、それぞれ子どもにも選択肢という問題がありますので、県教委と地教委というだけではなくて、ここに私立中学校なんかも絡んできますので、非常に難しい問題です。</p> <p>ということもあって、県立安芸中学校としては、一定今までの実績からも見て、うまくいっているというところでありながら、そういう募集停止にするかという話が出てくるのは、そういったところだというふうに考えております。</p> <p>それから、もう一つの校区制の部分につきましても、非常にこれも悩ましい問題です。校区制の問題につきましても、基本的には郡部の方々の選択肢といいますか、行く学校の中で非常にやはり希望が多かったというなかで、これを無くしておるという格好になっております。</p> <p>結果的に、高知市の方へ流れていくという状況になっておりますけども、やはり、子どもたちの選択を校区を縛って地元にとということをやっているのかどうかという判断のなかで、そういう今の、過去の判断をしておいて、現行の制度になっておりますので、それを今の段階で元に戻すというような方向性については、かなり現状は難しいというふうに認識しております。</p>
<p>小松氏</p>	<p>再質問です。先ほどから、魅力、魅力と言われているんですけど、確かに、新たに東部に学校が残るということで。ダムもダムダムと言われているんですけど、人の流出を抑える役目はあると思うんですけど。</p> <p>この統合の高校ができることによって、東にこの高校があるということ</p>

で東部の子たちだけが行く学校ではないので、逆に言えば、中央部、高知市から生徒さんが進んで、この新しい統合の高校もしくは県立中学校に、来たいと思えるような学校をつくっていただきたいと思っています。

8月に案が出されるというお話なんですけども、ただ単に2つを一つにして、従来の学校が一つになるという話ではなく、どういうふうな本当に魅力、新たな高知市内から生徒を呼べる学校づくりをされるのかという、そこをちょっと聞きたいんですけど。

その辺の具体案が、お示しにはなれないところもあると思うんですけど、ただ単に今の話でいくと、1+1で1の学校ができるお話だけなので。

もう少し具体的な、もう一歩でも半歩でも踏み込んだお話がなければ、ただ単に学校が一つ減るよと。それで、将来的には東部の生徒も人口等がいなくなる予想もされるので、小さくなるっていうニュアンスしかないので。

これから本当に魅力ある学校はどういうふうにつくっていくのか。それこそ今、県教委の方たちが来られていますので、その辺をお示しいただけないと、東部としてはちょっと、何と言うんですか、皆さんで、じゃあ、そこに行こうかという魅力が本当にあるのか、不安心がすごくあるんですが、その辺をお答えください。

伊藤教育長

それも私からお話をさせていただきます。

学校単独で多分、魅力のある学校づくりというのはできないと思います。今、8月末までに各学校で色々な検討をしてもらっています。

一つは、地域から、地域の子どもが地域の学校に上がっていただけるっていうものについては、一つはしっかりと進学実績をつくるべきでしょう。だから、進学の拠点校として安芸高校にやはり、これから勉学の面で国公立や難関校への進学者数を増やしていただく。そのための環境整備なり施策を打っていく必要があります。

先ほど言われた高知市、または県外から来るような魅力をつくるとなると、やはり非常に特色を持った、例えばクラブ活動でいうと、インターハイというよりもインターハイで全国を目指すとか、そういったような、あそこへ行ったらこれが目指せるんだっていうような大きなものであったりする必要があると思います。

それから、この安芸市または中芸地区、安芸地域、東部地区が目指す地域の活性化策、それとやはりベクトルを一緒に合わせて、大きく安芸地域を活性化していくような取組を、高校と地元、それから地元の民間の方々と連携してやっていくと、そういったような方向で考えていく必要もあります。

ですから、今の地域の活性化と合わせてやるとなると、高校だけではそれはなかなか難しいということで、冒頭申し上げましたけども、やはり市町村や地域とも一体となって進めていく必要があると思っております。

今、安芸地域では地域との連絡会がまだできていませんが、例えば、室戸とか嶺北とかいう所では、地元の市町村とかが入って一緒に、地域の活性化のなかに高校の活動をどういうふうに位置付けて取り組んでいくかというのを、協議会などをつくってやってもらっています。

そういうような形で、安芸にできる学校の活性化策を、一つはつくって

	<p>いこうかと考えております。</p> <p>それが非常に大きな話になってきたりしますので、この8月末までに、細かい具体的な、いついつやって誰がやってというようなところまでは、できてこないかと思えますけども、大きな方向性として、それは、こういう取組をしていくんだというのは、8月末までにそれぞれで出してもらうような話になっていますので、そこで、それが実現できるかとか、実現するためにはどうしていくかというようなことを、また考えていくことになると思います。</p> <p>大きく言うと、おさらいになりますけど、一つは、やはり進学であったり、就職の実績をしっかりと高めることです。</p> <p>もう1点は、域外からも来てもらえるような魅力について具体的にすることです。</p> <p>結局、安芸や中芸、その周辺にある魅力あるものを活用して、それと統合する学校の活動をベクトルを合わせながら持っていくということです。</p> <p>その一つには、安芸の陸上であったり、そういったクラブの活動もありますし、それから、この周辺の自治体の取組の、これからやっというところ、いかに一緒に高校が絡んで成果を出していけるかと。そういったようなお話をどう進めていくかということだと思います。</p> <p>今はそういったお答えしかできませんけども、この高校の再編振興計画の中では、安芸だけではなく、そのほかの中山間にある学校なんかでも、先ほど言いましたように市町村と協議会をつくってもらったりして、具体的なそういった協議を進めてきておるといような状況です。</p>
伊藤教育長	ほかにございますでしょうか。
傍聴者	〈意見なし〉
伊藤教育長	それでは、お時間も大体来ましたので、ご意見等をお伺いするのはこれで終了をさせていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

(5) 教育委員による協議

伊藤教育長	<p>それでは、教育委員による協議に移らせていただきたいと思います。今、たくさんの皆様から非常に貴重なご意見、ご発言をいただきましたので、次の3点について協議をお願いしたいというふうに思っております。</p> <p>一つ目は校地の問題で、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の統合と校地の一本化について。</p> <p>2つ目は、県立安芸中学校の存続をどうするか。</p> <p>3つ目については、その他、本日の皆様方のご発言等について、委員の皆様からの意見をお伺いしたいと思っております。それでよろしいでしょうか。</p>
各委員	はい。

伊藤教育長	<p>それでは、まず1点目の安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の統合、それから、校地を安芸桜ヶ丘高校へ一本化することについてですけども、本日、関係の皆様方からのご発言、ご意見もいただきました。それから、市町村の教育委員会からもご意見をいただいたところです。</p> <p>一般的には、先ほど木村委員からもお話がありましたけども、皆さん、一定その方向性でご賛成ということでしたが、委員の皆様についてもそういった形でよろしいでしょうか。</p>
各委員	はい。
伊藤教育長	<p>はい。皆様も、そういった方向でということでした承をいただきました。それから2点目ですけども、県立安芸中学の存続の有無について。</p> <p>やはり、募集人数が少なくなって皆が入れるようになったというような、そういったご意見もあって、当初の目的を果たしているのかというようなご意見もいただきましたけども、全般的にはこの実績等を。</p> <p>それから一つには、先ほどの市町村の教育委員会のお話が出てきて、それぞれの市町村の教育委員会としては、その市町村にある中学校の活性化というか、そういった問題の中から、どうなのかというご意見もいただきましたけども、実績等も含めまして、大筋では存続ではないかというようなご意見をいただいております。</p> <p>このことも含めまして、そういった方向でよろしいでしょうか、継続の方向で。まだ議論をということではないですね。</p>
各委員	〈了承〉
伊藤教育長	<p>はい、分かりました。そうしましたら、一定、教育委員の皆さんの間では存続の方向で進めていこうということで、了解いただいたということで承認いたします。</p> <p>それから最後に、今日たくさんの皆様からご意見をいただきましたけれども、委員の皆様から何かご意見がありましたらお願いしたいというふうに思います。</p>
八田委員	<p>県立中学校の募集停止の可能性については、多分、私が元々言い出したので責任を感じています。</p> <p>実際に、香南市を除く小学生の数がこれくらい減ってきて、ある程度の規模の公立校ができる可能性が本当にあるんだろうかというところから、ずっと考えていったところです。</p> <p>それで、市町村の教育委員会が当初危惧されていたことは、確かにあって、市町村立の中学校が県立中学校に子どもを取られるので、規模が小さくなってしまって十分な活動ができない。それは、事実としてあったと思うんです。</p> <p>ところが人口減少がもっと進んできてしまって、現状でいうと、県立中学校がなくても、もう規模が小さい学校しかないんですね。</p> <p>そうなってくると、子どもたちの選択肢として、小規模でも地元で勉強するのか、やはり中学校の発達段階にあったある程度の一定規模で勉強す</p>

るのかという選択肢を、どうしても残す必要があるという現状では、やはり私も県立中学校として存続するべきだろうと思っています。

ただ、そうなると、どうやって一定規模を保つのかということが非常に大きな問題で、その一定規模を保たないと、実は高校を統合しても、県中なしでは生徒を集められない可能性が高いです。ほとんど、中学校から高知市内に抜けてしまう可能性がある。

だから、県立中学校はもう当然そこで必要になってくる。それでも、じゃあ県立中学校にどうやって一定規模を保つかというのは、まだまだ非常に大きな問題です。

ご指摘があったように、どんな魅力を出すんですかって、もっと難しい問題だと思っています。唯一、今プラスに作用するだろうと思うのは、多分、県立の中で最も駅に近い学校になる。

今もそうなんです。ものすごく駅に近いです。なはり線で通えばすぐに学校に行けるということで、香南市、ひょっとしたら南国市からも、魅力さえあればもう少し来れるかなと。

ただし、高知市内からどうやって連れてくるかって言われると、高知市内は多様な学校があつて、それに打ち勝つだけの魅力を出してもらえませんかと言われると、私はちょっと思い付くものが正直なところはないです。

でもそこで、駅前であること。それから、何か文化なりスポーツなりで特色のあるクラブ活動ができること。それから、進学実績がちゃんとあることを出していけば、少なくとも香南市、南国市辺りからはもう少し来るんじゃないかなという気が、今ちょっとします。

その時に、ぜひ考えていただきたいのは、学校の周辺のまちづくりで、学校は駅から近いんだけど、何にもない所ではなくて、何かその地域に活気のあるまちがあつて、にぎわいのあるまちがあつて、そこにある学校っていうことを、まちづくりと一緒に考えていただきたいなというのは、この地域へのお願いですかね。

まちが活発であれば、安芸市にぎやかでいいねって、そういう気持ちになって行きやすいと思うので。ぜひ、快速もとまる球場前駅ですから、あそこに子どもたちが行きたくなるような、ぜひ、まちづくりに協力していただければというのがお願いします。

道路の問題等ご指摘があつて、それはすごく深刻な問題だと思ったので、それも含めてぜひご協力いただきたいところです。

多分、子どもの事故を防ぐのは大事なんだけど、私、逆のことも考えてほしくて。車が自由に通れるようになると、自転車を通う子にとってはすごく迷惑なんです。それは、子どもたちも自由に走れて車も走れるんだったらいいけど、結構多いのが、車のために無理やり歩道を狭くしてしまうことが多いんです。そんなことをすると子どもたちには迷惑なので。

子どもたちの目線で、本当にいい所だなっていうようなことを、ぜひ考えていただければと思います。

平田委員

私も本日ここへ参加するまで、いろんな面で勉強不足な点もあったということを深く反省しておりますけど。本日まで出席いただきました皆さんから、この東部地域の県立学校はどうあるべきかということで、直接お話を聞かせていただきまして、大変参考になりました。

	<p>改めて本当に新しい学校をつくるということで、施設の充実はもちろんのこと、教育内容についても、地域の期待に応えられるような学校づくりを県教委事務局としては、していただかなければならないと思っています。</p> <p>スケジュール的にも、新しい学校の教育内容についても、8月末までに案を出すというように書かれておりますので、ぜひ地域の方々や、それぞれの高等学校ともお話をしながら、現在東部地区で46.5%ぐらいしか残ってないというような数字を聞きましたので、この数字が、限りなく東部の子どもさんは東部の県立学校で学ぶという、期待感のある学校をつくっていただきたいと思いました。</p> <p>今日は貴重な意見を、ご出席いただきました皆さんと、実態報告も受けまして、方向としては大きくは、東部の皆さんも一致しているという感じを、私自身は持ちました。ありがとうございました。</p>
竹島委員	<p>今日は本当にありがとうございました。私の同級生も安芸で本当にちりめん井を中心に頑張っていますので、ぜひ皆さんが今言ったように、地域の魅力づくりがまた学校の魅力づくりとなって、ぜひ安芸市が発展していくように願っております。本当に今日はありがとうございました。</p>
伊藤教育長	<p>あと、校名についてのお話が、発言者の方々からも出ました。今回、校名について具体を協議するということにはなっておりませんが、何人かからお話もいただきましたので、9月の教育委員会協議会でその案などをお示ししていく。その辺りのタイミングでお示しをしていくような恰好がいいのかなと思っています。</p> <p>また、その方法とかも含めまして、教育委員会の中で確認をしていただくというようなことでやっていこうと思っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思っております。</p>

【閉会】

伊藤教育長	<p>それでは、事務局から何かありますか。</p>
山岡企画監	<p>次回は、7月13日に四万十町の地域交流センターくぼかわで、教育委員会協議会を開催したいと思っております。</p> <p>また、9月にも取りまとめの教育委員会協議会を開きたいと思っておりますので、またよろしくお願ひいたします。以上です。</p>
伊藤教育長	<p>それでは、以上で本日の教育委員会協議会を終了いたします。</p> <p>ご発言いただきました皆様、またご参加いただきました皆様、本日は本当に遅い時間まで、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。</p>